

ゼロ年代演劇、  
最後のマスターピースにして  
クラシック、再び。

ままごと

# わが星

mamagoto  
OUR PLANET

2015年5月—6月

三鷹市芸術文化センター 星のホール 他  
May-June 2015  
MITAKA CITY ARTS CENTER  
THEATER "HOSHI" and more

作・演出

柴 幸男

Written & Directed by  
YUKIO SHIBA

Music by  
KOSHI MIURA

音楽

三浦康嗣

(□□□)

CAST

大柿友哉 (害獣芝居)  
黒岩三佳 (キリンバズウカ)  
斎藤淳子 (中野成樹+フランケンズ)  
寺田剛史 (飛ぶ劇場)  
永井秀樹 (青年団)  
中島佳子  
端田新菜 (ままごと|青年団)  
山内健司 (青年団)

## ままごとの新聞

newspaper of  
mamagoto

第11号

発行日：2014年8月21日  
発行元：ままごと

「ままごとの新聞」は、柴幸男の作品を上演する団体「ままごと」が不定期に発行する活動報告紙です。

「街と演劇」

### 暑

い夏を高校生たちと一緒に過ごしています。高校生たちの体温は高く、より暑くなっている気がします。新作『わたしの星』の稽古、後半戦です。

井の頭公園の中にある稽古場に。この稽古場で初めてつくった作品は『わが星』でした。何度も通ったこの稽古場も、8月中に取り壊されるようです。井の頭公園の木々を抜ける稽古場に向うのが好きでした。

『わたしの星』は、壊れゆく地球に取り残された高校生たちの物語です。火星への移住が進む中、それぞれの理由で地球に残った高校生たち。夏休みの中、学校の音楽室で文化祭の準備をする彼らの1日を切り取った作品になります。『わが星』の世界をちよっとだけ引き継いだ高校生の物語をつくりたいと思ったのはもう数年前の話になります。

ありがたいことに『わが星』は

## わたしの星、の夏

全国の演劇部などで上演される作品になりました。しかし『わが星』には音楽と演出が練りこまれているために、戯曲をただ上演するのは難しい作品だと僕は思っています。多くの演劇部から「音楽」はどこにあるのかという質問を受けました。あの「音楽」は三浦康嗣さんの音源を借りて、稽古の中で組み立てられたものです。それを貸し出すことは、例えば演出そのものを貸し出すようなことで、非演劇的な行為だと僕は考えています。それよりも描きたいものがあるならば、演出の、作家の、稽古場の知恵で実現してほしい。そうしたほうがきっと良い作品が生まれるはずだと思っています。

同時に僕は考えました。かつて僕も高校の演劇部だった。では高校生の僕が『わが星』という作品を部活で上演するとしたら、どうするだろうか。どうやって問題を解決するだろうか。どうやって自分たちの物語に書き換えるだろうか。

か。それが『わたしの星』を生み出すきっかけだったと思います。

そして、可能であれば、今後も高校生が上演できるような作品にしたい、創作の過程も記録し活用できないうかが、そんな妄想はこの夏に少しずつ実現しつつあります。

全力で演技する彼らは星のように眩しく、その輝かしさと危うさは時間の流れを浮き彫りにし、そして逆流させます。彼らと白熱した稽古をしているうちに僕は、かつてあの夏の演劇部員に戻ってしまったような感覚に陥るのです。これも夏の暑さのせいでしょうか。そんな稽古も、もう終盤。『わたしの星』がもうすぐ開幕します。



Yukio Shiba

82年愛知県出身。青年団演出部所属。日本大学芸術学部在学中に『ドドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010年『わが星』にて第54回岸田國士戯曲賞を受賞、同年に劇団「ままごと」を旗揚げ。



「わたしの星」稽古風景、高校生キャスト&スタッフたち

# 「ハートのビートル」

vol. 08



宮永琢生 副作

## 「わが星」のこと

第2回



端田新菜 俳優

## 「長者町からの手紙」

2通目



加藤仲葉 副作

こんにちは。毎日あっちはねー。最近の「ままごと」は、東京では柴幸男×高校生が「わたしの星」の稽古大石将弘率いる「小豆島スイッチ」部隊はその名の通り小豆島で滞在制作&発表。うん、やっぱり今年の夏はアツクなりそうです。小豆島醬の郷土坂手港プロジェクトオープニングイベント「海辺のなまつり」(7月20日)では、星野概念実験室のみんな、そしてビルディングの加藤紗希がライブしに来てくれて、結果的に、名児耶ゆりwith星野概念実験室&ビルディングとなったライブは大盛り上がり……あれ？ ままごとは(笑)?? その後に行なった益踊り「いつでもえいよ小豆島音頭」(作詞/柴幸男 作曲/蓮沼執太 振付/ままごと)もアンコールに次ぐアンコールで幕を閉じました。ツアりの合間に遊びに来てくれた東京デスロックのTJ(多田淳之介)&いずみさん(佐山和泉)&りっちゃん(間野律子)も本当にありがと！ みんなが小豆島に来てくれてうれしかったな。



Baku Furukawa 『far/close』

表現(Hogen) Doppelzimmer、あだち麗三郎クワルテットなど、多数のグループに参加している古川麦(ふるかわまき)さん、1stアルバム「昨年、ままごと」港の劇場@小豆島で名児耶ゆりが行った「しょうゆしょうゆ」では、表現(Togoh)の権頭真由さんと藤公哉さんが一緒に曲をつくってくれたり、「ままごと×小豆島」とは関係が深いミュージシャンたち(と思っ)てます、勝手に。麦君の歌は小豆島の海のように穏やかで優しい。先日は Doppelzimmer として小豆島のライブもしてくれました。これからいろんな音楽がこの島で鳴ってたらいいな。

島の時間の流れを知ること。島の人たちと同じ時間を過ごすこと。そーゆーの全部が小豆島での大切な創作の時間。今回、「小豆島スイッチ」部隊のみんなも、島で毎日過ごす中でそのことを自然と理解してくれていました。そして、このメンバーだからこそ生まれた「小豆島スイッチ」だったなあって、そんなふうに思います。島の子どもたちも大人の皆さんも、滞在クリエイターの皆さんも、みんな本気で一緒に《ままごと》してくれてありがと！

「ただいま」と「おかえり」から始まる演劇がある。僕たちはそう信じてる。だからまた島の島に帰りたいと思います。「ただいま」「おかえり」も、どっちも言いたいから。

劇団からの年賀状や劇団のホームページでひっそりとお知らせしましたが、ままごととは来年、『わが星』を再演することになりました。私は劇団内の「わが星番長」を非公式に務めておりますので、それに伴いまして、前回から、「わが星のこと」という連載をさせてもらっています。ままごと内ではたまにこのような「番長制」がしかれますが、その定義はあいまいです。今回の私の番長業務は「すばらしい作品となるよう祈ること」「観客の皆さんを大事にすること」「作品を観たいと思ってくれる人に作品を届けること」「そのためにした方がいいことをやること」「メンバーをリスペクトすること、愛すること、感謝すること。そしてそれを言葉にする」と「健康に舞台上立つこと」などを予定しています。精一杯努めさせていただきます！ 私がちーちゃんを演じさせてもらえるのも、きっとこれが最後です。とにかく毎日、『わが星』のことを考え続けています。

今日は8月1日。昨日、小豆島から帰ってきました。7月16日からままごととして滞在制作に行っていて30日には「きもだめスイッチ」というかなり大掛かりな街歩き肝試しをやりました。ニッポンの河川的光瀬指絵ちゃん、青年団の山本雅幸君、く口ひげの北村美岬ちゃん、それから大石将弘君、おつかれさまでした。ありがと。演劇ってすごいね。す



小豆島スイッチ7/27 Photo=Hideaki Hamada

ごかつたね。たくさんのアテイストの方や役場の方や街の方が楽しんで手を貸してくださったね。小豆島坂手の静かな港町の夜に、たくさんの叫び声と笑い声が響き渡って、街全体が劇場になっていました。終わって見上げれば満天の星。この夏一番の星空でした。眠たそうにしていた息子もポカんと空を見上げていました。その小豆島での日々の間も、『わが星』のことを考え続けていました。その話もまたいつかさせてもらおうと思います。

お元気ですか？ いかがお過ごしでしょうか。いま長者町では8月8・9日に開催する「真夏の長者町大緑会」に向けて実行委員会が絶賛準備中です。これは長者町にかかわる団体同士が協働して行う、グルメ屋台あり・出し物ありのいわば「本気の大人の文化祭」。開催4年目の今年は、長者町にある飲食店と協働して、お祭り限定ビールをつくる企画が出現。そこで、美味しいクラフトビールが飲める23 Craft Beers MGOVAの店長・榮川さんのご紹介により、三重県は伊勢にある伊勢角屋さんでオリジナルビールをつくらせてもらいました！



高校生に負けないほどさわやかな味でした

初めて行うビールづくり。粉砕した麦粉をおいしい水で煮込み、麦汁完成！ それをろ過したもの何種類かのホップを投入し再度煮込んだら、酵母が活動しやすい温度まで冷やして発酵槽へ。最後に酵母(ブイースト菌)を投入して……と書くけど短い作業。9時から18時までかけて行いました。一番麦汁のうっとりする甘さに、琥珀色の美しい輝き。ビールがより愛おしくなるひとときでした。

そんな眩しい夏のできごとを、ぜひぜひ見届けに来てください。夏には人を本気にさせる何かがあるのかも、なんて思いつつ今回は筆をおきます。では、また！

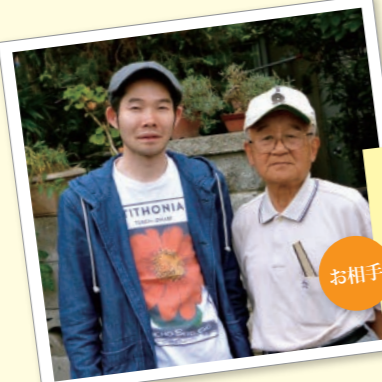
## 縁談のテーブル

第4回



大石将弘

菅原直樹さん(写真左)俳優、介護福祉士。「老いと演劇」俳優、介護福祉士。小劇場をOibokkeShi主宰。青年団所属。小劇場を中心に多数の作品に出演。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として働く。別養護老人ホームの介護と演劇の相性の良さを実感し、地域に介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇の新しいあり方を模索している。2012年、岡山県和気町に移住。



お相手

### 「自立と移住っていつのを重ねた」

大石 岡山県和気町は、昔々奥さん奥さんのどちらかの出身地ではないんですか？

菅原 ないです。前から僕の奥さんは田舎暮らしがしたかった。で震災があつて、子どもが生まれてすぐだったので、子どもを安心して外で遊ばせられる環境が欲しいっていう話を。僕は演劇をやってたけど就職はしてなくて、ある意味フットワークが軽かったんです。で、介護の仕事って面白いって思ってたんで、どこかに移住して介護の仕事ができればいいかなって。

大石 へえ。

### 「自立と移住っていつのを重ねた」

大石 介護と演劇の相性がいいと思っただけでどうして？

菅原 まず、お年寄りが個性的な存在だったっていう。僕は演劇のところが好きかって言ったら個性的な人間を見るのが好きだったんで。お年寄りは個性が煮詰まる存在なんです。大石 煮詰まるっていいですね。菅原 それから、認知症とかかわり演劇が必要になるんじゃないかって。僕が今働いている特別養護老人ホームで、あるおばあさんは僕のことを時計屋さんだと思ってる。大石 へえ。

菅原 僕が「時計の困りごとない？」って聞くと、「もういっぱいありますよー」って。時計屋さんの演技をすることに罪悪感がありますよ。だから、こいつうふうに心を通わせる

### 介護と演劇の相性のよさ……？

大石 介護と演劇の相性がいいと思っただけでどうして？

菅原 まず、お年寄りが個性的な存在だったっていう。僕は演劇のところが好きかって言ったら個性的な人間を見るのが好きだったんで。お年寄りは個性が煮詰まる存在なんです。大石 煮詰まるっていいですね。菅原 それから、認知症とかかわり演劇が必要になるんじゃないかって。僕が今働いている特別養護老人ホームで、あるおばあさんは僕のことを時計屋さんだと思ってる。大石 へえ。

### 「介護の楽しさと俳優の喜び」

菅原 こっちに来ると「演劇人」っていう認識になりますね。俳優っていうよりも演劇全体のことをよく知ってる人。でも名刺には「俳優」って書いてます。介護福祉士として働いているのは俳優っていう意識が近いんです。

大石 俳優として働いてる？

菅原 いや、なんですかね。お年寄りとかかわりを持つ時に、俳優の技術っていうのが生かされてる実感があるんですよ。

大石 ああ、なるほど。

菅原 介護って管理職にもなっていないんですけど。一番下が介護職で、トイレ介助したりとか。僕それが好きなんです。お年寄りとかかわりがある。それが俳優の喜びと近いなって思ってたんです。俳優っていいことにはこだわりがありますね、ここに来て。

## Column

### 新井悠里

「自分にしか出来ない」と胸を張って言える、そんな自分にしかない誇り一つでもいいので探そう。それが私たち高校生スタッフの大きな目標です。これを初めて柴さんから聞いた時、まずいな、と思いました。私の中のコンプレックスでダントツ1位なのが、「自信が持てない」ということだったからです。これは自覚もあるし、親にも友人にも先生にも初対面の人にも言われたことがあります。分かっていたって持てないものは持てない。そう腐ってしまう私に、変わろうと思える転機をくれたのが、この『わたしの星』でした。同じように舞台が好きで、この作品と一緒につくり出そうとする仲間が出来、高校生スタッフという自分自身ですべきことを見出し誇る仕事を一緒に背負う人が隣にいる。ここで何が分かるか分からない、見つからないかもしれない、でも私なりの『わたしの星』が見つければいいなという思いで、日々稽古に臨んでいます。皆さんも皆さんだけの星、観てみませんか？

## 高校生スタッフから見た「わたしの星」

### 小出実樹

私にとって、東京は異世界で、東京に住んでいる人は、同じ日本でも違う人種ってくらいに思っていて、だから今でも東京での日々は非日常で、疲れる。けど、田舎特有の東京美化が消え去るくらいには、東京というものが現実に感じられてきたと思う。もとはキャスト志望だったので、初めのうちは見ていることがつらいと思うこともあったけど、今はキャストがいい空気で稽古で来るとうれし、キャスト一人ひとりのパワーとか発想(?)を見てすごいなあ毎回思う。これから稽古を重ねて、作品が出来上がっていくのが楽しみだし、自分の目標としては、仕事を見つけない以前に与えられた仕事のクオリティーを上げること、3年受験生なので、今回を通してこれからの自分の演劇に対するかわり方を決めたいと思う。一生で一度きりかもしれないから、東京は好きになれないけど、あと一カ月くらいがんばろう、と思う。

## NEXT

柴幸男【作・演出】  
劇団うりんこ  
『妥協点P』  
@こまばアゴラ劇場  
2014年8月27日[水]-31日[日]  
www.urinko.jp

柴幸男・端田新菜・宮永琢生・加藤仲葉【構成・演出・出演】  
アート小豆島・豊島2014  
小豆島 番の郷土坂手港プロジェクト2014  
『観光から関係へ-Relational Tourism-』  
@小豆島 坂手港 ほか  
2014年9月6日[土]-15日[月・祝]  
http://relational-tourism.jp

柴幸男【ワークショップ講師】  
heater ZOU-NO-HANA vol.8  
『スイッチを押すと何が起る!?』  
『象の鼻スイッチ』ワークショップ  
@象の鼻テラス・象の鼻パーク  
2014年9月20日[土]・21日[日]・23日[火・祝]  
www.zounohana.com

大石将弘【出演】  
ナイロン100℃ 42nd SESSION  
『社長吸血記』  
@本多劇場  
2014年9月26日[金]-10月19日[日]  
北九州・大阪・新潟公演あり  
www.sillywalk.com/nylon/

編集後記  
柴さんは東京で、ほかの劇団員は小豆島でと、それぞれの7月を過ごしたままごと。8月は高校生キャスト&スタッフがままごと久々の新作『わたしの星』を上演します。次号、第12号もお楽しみに。(熊井)

企画・編集=ままごと  
構成=熊井玲  
デザイン=西山昭彦

対談の続きはHPで読めます！